

第1回 徳島市新ホール建設候補地検討会議 会議録

日 時 平成29年3月29日（水） 午前10時00分～午前11時27分
場 所 ホテル千秋閣 7階 鳳の間
出席者 15名（委員7名、事務局ほか）
傍聴者 4名

1 開会

2 市長あいさつ

本検討会議は、本市の喫緊の重要課題の一つである、新たなホールの建設候補地に関し、専門の見地から推進本部へのご意見をいただくため設置した。

新たなホールの建設候補地については、透明性のあるプロセスを経て選定したい。短期間であるが、それぞれの専門的な視点から忌憚のないご意見やご提案をいただきたい。

3 委員紹介

委員及び事務局紹介

4 設置要綱及びスケジュールについて

事務局：

資料1 徳島市新ホール建設候補地検討会議設置要綱

資料2 検討会議の目的及び開催スケジュール
について説明

5 会長・副会長の選出

会長に山中委員、副会長に田村委員を選出

会長：

ホール整備について、十数年前からいろんな形でお話しさせていただいている。

その過程で、ホールの特徴については、どういうものが市民にとって重要なのかということ、大変勉強させていただいた。

今回、建設用地の選定というのは、なかなか難しいテーマであり、また大変な重責である。皆様のご協力を得て、良い意見を言いたい。ご協力をお願いします。

副会長：

経済と文化は地域活性化の両輪だと思う。徳島は歴史的にも文化豊かな街であるが、そこにおいて、文化創造の拠点となる施設が現状無いというのは、ある意味異常事態であると思う。

精力的に検討を進めて、できるだけ早くいいものを作っていきたい。また、県庁所在地の中核の拠点であり、県全体の中でも非常にシンボリックな場所にならなければいけないので、恥ずかしくないような施設を作りたいと思っているので、ご議論をお願いしたい。

6 議事

(1) 新たなホールの基本方針等について

会長：

本日、3つの議題があるが、それぞれ質疑応答をしながら、最後に自由に討議
いただくという形で進めていきたい。

議題(1)の「新たなホールの基本方針等について」事務局から説明をお願いします。

事務局：

資料3 新ホール建設候補地検討資料

- 1 新たなホール整備の基本的な考え方
- 2 音楽・芸術ホール整備推進有識者会議からの提言内容（抜粋）について
について説明

会長：

基本方針として進めてきたことの確認と、昨年の有識者会議の取りまとめの内容
である。

市民のためのホールということで、市民の文化活動が最も重視される場所であ
るとということが常に出てきている。

何か質問はあるか。

委員：

特になし

(2) 建設候補地の概要について

事務局：

資料3 新ホール建設候補地検討資料

- 3 建設候補地の概要

別紙 候補地1 徳島市立文化センター敷地

候補地2 徳島駅西側駐車場

候補地3 旧動物園跡地

について説明

会長：

資料の説明について、確認事項や質問事項はあるか。

A委員：

資料別紙の文化センター敷地の位置図で、現在トモニプラザとの間の駐車場に
ついて、昔、私が小さかった頃には道路があったが、現在の検討段階では敷地か
ら除くということか。

事務局：

駐車場の中に一部市道があり、駐車場内の通路のように見えている。検討する
場合、付け替えるような形になると考えられる。

A委員：

敷地としてはそこも関係してくるということか。

事務局：

そういうことになる。

会長：

今の面積には入っていないのか。

事務局：

面積に入っている。

B委員：

旧動物園跡地について、別紙資料の特記事項の中に、第一種住居地域であるため、建築審査会の同意が必要であり、都市計画決定を見直して、都市計画公園の指定を解除する必要があるということだが、これの難易度はどれくらいなのか。

いろいろな規制を解除するのに、1年も2年もかかるようならば、この会議の議論としてどうなのか、後から補える特記事項と、前提として絶対に条件を確保しておかなければいけないことがあると思う。

事務局：

都市計画の変更等の手続きにかかる期間等については、通常の場合は、徳島県との事前協議や住民への説明会、変更案の縦覧、公聴会などを行い、そして、都市計画審議会に諮るといった手続きがある。内容にもよるが、通常なら約6か月から1年程度の期間が必要と聞いているが、もう少し長くかかる場合もあると聞いている。

会長：

第一種住居地域の用途規制の緩和については、公共施設についてはある程度認められる可能性があると考えられる。

難しいのは、都市計画のほうだろう。おそらく都市公園の代替地が必要となる可能性が高く、この面積に見合うだけの都市公園をどこか別の所に計画しないと、計画変更できない可能性が考えられる。

C委員：

徳島駅西側駐車場の案について、所有の大半がJR四国ということで案として出てきている。おそらく事前の話はしているのだろうと思うが、仮に、こちらの候補地で進めていくということになった場合に、JR四国と市との間で検討に入るという話は、基本的にはできているのか。

事務局：

検討に入るということで、了承は得られている。

D委員：

徳島駅西側駐車場の案で、土地については購入か借地か、どちらの方向で進めていくのか。

事務局：

現時点では、まだ取得か賃借かはまだ決まっていない。

会長：

土地の条件については、まだ不確定な部分がある。

D委員：

基本的な質問だが、現在提案されている3つの場所で検討を進めていくという前提条件なのか。

事務局：

そのとおりである。

会長：

先ほど都市計画決定の見直しが難しいと言ったが、仮に候補地が決まれば、進めていくということなので、まったく不可能であるという見込みではない。

市のほうは、3か所とも建設可能であるという判断をして、提案しているということである。

B委員：

文化センター敷地であるが、平成29年から解体工事ということで、それに半年から1年かかり、それから建設工事を行うとしたら、この場所が4年から5年近い形で工事の場所になるということか。

会長：

文化センター解体のスケジュールについてはどうなっているのか。

事務局：

文化センターの解体スケジュールとしては、平成29年度に解体設計、平成30年度に解体工事を予定している。大きな建物なので、工事の入札や工事期間を含めると1年程度はかかると考えている。

仮に、文化センター敷地を候補地とした場合には、解体工事の実施と同時並行で、新しいホールの整備計画の策定などを進められると考えている。

会長：

解体工事が終わるくらいのタイミングで、ちょうど新たなホールの建設が開始できる状態になっているか、または、少し間が空くくらいで整地ができている状態ということである。

E委員：

先ほど、この3案のどれかに決めるということの確認があった。

郊外の大型店の進出などにより、駅前の商業施設等の状況に変化が出てきている。仮に、徳島駅の近くにホールを作った場合、県都である徳島市の駅前の活性化につながるかどうか、徳島駅前の状況が、どのように変わっていくのかということもよく考えて検討していく必要がある。

アミコビルの中に、徳島市立図書館が移転してきて、貸出数が全国トップクラスになるような状況となっている。議論を拡散させてしまうような意見であるが、既存の建物の活用というようなことも含めて検討してみてもどうか。

会長：

3つの候補地は、できるだけ整備期間を短くしたいという考えで、今取り掛かれる可能性のある所という視点で出てきたものだと思う。

もう少し先を見ていくと、もっと戦略的なこともいろいろ出てくる可能性もある。しかし、現在の状況で、いろいろなことを見据えながら進めていくという時間がないというのが、市が持っている感覚ではないかと考えられる。だから、できるだけ早く整備できる場所が、この3つの候補地なのではと私自身は思っている。

B委員：

文化センターが閉館になって、実際コンサートに行く回数が劇的に減った。

一度、2月くらいにオーケストラのコンサートを聴きに鳴門まで行ったことがある。駐車場からホールまで行き、9時にコンサートが終わり、悪天候だったので駐車場で車を探すのに10分、駐車場から出るのに15分、家に着いたら11時頃だった。

こんな状況では、市内にホールが出来ないうちは、神戸か大阪に行こうかと思う。市内ならコンサートが終わった後に、食事でもして帰ろうかとか、少し余韻に浸って友達と話をしようかということもあるが、徳島市外ならば物理的に無理である。それならば県外に行って泊まるか、もうあきらめてゆっくり帰ってくるかである。

この状況がこれ以上長く続くようならば、もともと県外出身なので、申し訳ないが徳島を引退して神戸に住もうかと思う。少なくとも今自分が暮らしている県

庁所在地に、そのような状況があまりにも長く続くと、子供や高齢者には待っている時間がないのではないか。

文化に触れなくなると、なくても暮らせるようになる。ちょっとした素人の演劇のサークルを作ろうと思っても、発表も練習もする場所がない。文化は儚いものなので、続けていく何かがあればすぐに無くなってしまう。

その中で市が、現実的に可能な案としてどれもベストではないけれども、3つの案を出して来たということに対して、市民は今まであまり関心を持たないで10年置いてきてしまった。普通の企業なら、10年間やらないビジネスはお蔵入りである。そのための調査時間を使うということは基本ありえない。ベストはいつの時代も変わるので、ベストだと思った時点で3年経ったら状況は変わってしまう。今できる最大のことをスピード感を持ってやるのが一番だと思う。

あとは、経済効果、公共交通を無くさないために集約できて、その場所に車ではなくて集まれる地域を作らないと、長い目で見た時に中核都市の意味が無くなるので、そのような視点で検討していく必要があると考えている。

C委員：

小規模なあわぎんホールでさえ、今は利用者が殺到して、なかなか使えない状況になっている。市民の方にはいろいろな意見はあると思うが、私の認識では、多くの市民の方が、いい加減早く作ってほしいというのが大勢の意見ではないか。

会長：

ホールに関しては、スピード感というのが、一番重要な感覚になりつつあるように感じられる。

(3) 建設候補地検討の視点について

事務局：

資料3 新ホール建設候補地検討資料

4 建設候補地検討の視点
について説明

会長：

建設候補地の検討項目についての資料説明であるが、この項目でよいか、意見をいただきたい。

F委員：

現時点で市のほうで把握している事項は、事務局の資料の通りであると理解した。

議題に戻るが、この検討会議は、最終的に3つの候補地から1つを選ぶのか、それとも、3つの候補地に対して長所と短所を挙げる場なのか。

事務局：

この会議では、いずれか1つを選ぶのではなく、それぞれの土地についてメリット、デメリットなどの評価をお願いしたい。最終的には、徳島市が一か所を選定したいと考えている。

会長：

順位をつけて評価するのか、それぞれに望ましい部分を挙げるのか、意見の文面は最後に委員全員で相談して決定する。最終決定は市が行うが、その際、我々委員の意見が尊重されることになると思われるため、慎重に議論したい。あるいは、候補地に一長一短があるという意見が占めて、決定しきれない場合は、そのような意見を提出するものと考えている。

D委員：

資料3の3ページで、新たなホール整備の取組方針で、「民間事業者の資金」と記載があるが、これはPFIと理解してよいか。

事務局：

そのとおりである。

会長：

最近は、法に基づくPFIもあるが、その他のPPPなどの広い範囲の民間活用方式も含んだものと理解している。

B委員：

資料3の8ページで、建設候補地の検討項目に5つの条件を挙げている。この中での優先順位はどうなるのか。

事務局：

委員それぞれの考えもあると思うが、スピード感と費用的な面については大きな要素と考えている。

C委員：

次回以降に検討していく上で、それぞれの候補地でコストがどれくらいかかるかの資料を提示してもらえるのか。また、去年の有識者会議の提言でも、大ホールの席数について意見が分かれていた。大都市のホールは別として、地方の代表的なホールだと、どのくらいの席数なのか。

緊張感を持って検討していくので、我々が検討するにあたって参考になる資料の提示をお願いしたい。

F委員：

これまで、市長選挙や再開発の流れがあり現在に至っている。住民の意見を直接聞いたわけではないが、市長選挙の結果というのは、再開発の案は場所ではなく、費用が高かったのが一番の問題だったと思っている。

検討項目の優先順位の話も出たが、全体の構想の中では、費用面を一番に検討するのが市民のニーズではないかと思っている。事務局には、大まかでもよいので経費が分かる資料を提示してほしい。

C委員：

補足すると、費用面は重要な要素だが、コストの案が提示されても、必ずしも一番安いところに決定しようとは考えていない。

F委員：

今の徳島市の状況からすれば、場所と基本的な考え方だけでなく、やはりある程度の数字がないと検討できない。

会長：

現在、建設費が高騰した状態でどんどん価格が見直されている状況である。今後は少し下がっていく想定で、コストを見積もることができるのではと期待している。

ただ、今の段階では、設計までしないので、おおよその面積を考えて、現在稼働中のホール事例の平米単価を使っての概算になると思われる。それに加えて、例えば、大型車の進入に色々な工事が必要だとか、レイアウトに難しい点があるとかを検討していくと、多少単価を上げる要因になる可能性がある。

E委員：

市長選挙の結果を見ると、再開発事業での建設費が急に上がったことに対して、市民の感情が敏感に反応したのだろうと思う。今回、徳島駅西側駐車場の土地なら周囲の施設設備を撤去したらどれだけの費用がかかるのか、その点を市民はし

っかりと見ている。音楽ホールの有効性や音響効果、収容能力なども大事だが、一番市民の目線で分かりやすいのは、費用がどれくらいかかるかである。本来の音楽ホールの建設から考えると本末転倒かもしれないが、納税者の立場からすれば、再開発事業よりどれだけコストがうまく調整できるのかが、非常に関心が高いと思う。

A 委員：

今回の会議の検討テーマである、検討の視点に基づく意見で、候補地によっては面積に違いがあるが、本当に基本方針に沿ったことが計画できるのか、後からでも改善できる要素なのか、初めに決めておかないと出来ないものなのかなどを含めて、ある程度具体的に提示してもらえれば、検討するときにより分かりやすい。

会長：

期間や費用についても、想定する大ホールの面積、その他施設を合わせた時のイメージ、それらを検討しないと議論ができない。どんな形状になるか、候補地の面積に配置できるかが分かるような資料を提示してほしい。

B 委員：

土地について、上に建てるものはこちら側の意思で予算を調整していくことができるが、前提である土地の条件が確実にクリアできないと、話が進んでいかない。予算の中で削っていくものもあるが、譲ってはいけない部分もある。前提条件をきれいな形にして話を進めたいと思う。

会長：

土地の条件は、交渉事も含めて残っている。この会議で一か所を決定するものではないということは非常に大きい。

場合によれば、3つの案の中で優先順位を決めて交渉していただき、その中で可能な場所で進めていくこともありえると考えている。土地に関しては交渉なので、オープンにできない部分もあり、しっかりやってもらう必要がある。ただ、候補地として出てきた以上は、交渉して取得できる可能性があるということだと思う。

F 委員：

徳島駅西側駐車場の候補地は、隣接地のホテル等と交渉して、今の面積より敷地を拡大する可能性はあるのか。

事務局：

可能性はある。

会長：

徳島駅西側駐車場の候補地は、収益性の高い施設を入れて、拡張していく可能性はあるかもしれない。

B 委員：

文化センター敷地について。交通アクセスや必要な駐車場台数も検討項目に含まれているが、東警察署が裁判所に移転するという話で周辺の環境は激変すると思う。東警察署の跡地がどうなるのかなど、分かるのであれば条件の中に入れてほしい。

会長：

周辺の土地利用の変化の予定を資料として提出してほしいと。東警察署が移転することは決まっており、跡地は当分東警察署の駐車場になる模様である。

E 委員：

鉄道高架事業がどうなるかということもあるが、駅北側の開発のことも市のほうでも検討されていると思う。現在の市立体育館を旧動物園跡地に移転するという話を聞いたことがあるが、そのような計画はあるのか。

事務局：

市立体育館について、そのような計画はない。平成29年度から市立体育館の今後について検討することになっている。

会長：

鉄道高架の議論はこれから行うのか。

事務局：

先般、新聞報道されたとおり、駅周辺のまちづくりということで徳島市が平成29年度から取り組んでいくということになっている。

会長：

不確定な要素がいくつか残っているということだが、駅北については、高架になると、いろいろなことを考えなければならないことになる。

これから複数回の会議を行うので、他に必要な資料があれば事務局へ連絡して欲しい。提示可能な情報はできるだけ提示してもらい、委員全員で検討していきたいし、専門的なことについても質問してもらえれば確認してもらえる。

(4) その他

会長：

第2回、3回会議では、検討項目について、事務局よりなるべく細かい情報を提示してもらい、場合によっては、3つの候補地の比較をする方法をとることも考えている。

以上で本日の議題はすべて終了した。事務局へお返しする。

事務局：

第1回徳島市新ホール建設候補地検討会議を終了する。